

# 第一回死刑廃止世界大会が開かれました

## 知られていなかった日本の死刑

### 死刑について考えてみませんか

東京拘置所のそばで死刑について考える会（そばの会）  
東京都荒川区南千住 1-59-6-302

6月21日～23日、フランス・ストラスブールで開かれていた第一回死刑廃止世界大会に日本から参加した人たちが元気いっぱい帰ってきました。

ヨーロッパ評議会の国際会議場には、日本の死刑囚の描いた絵画や、死刑囚の処遇を解説するパネルが展示され、大きな反響を呼びました。

冤罪をはらすまで三四年もかかった元死刑囚の免田栄さんのスピーチは、とりわけ大きな拍手で迎えられ、たくさんのマスコミで紹介されました。

大会にはジャック・デリダやアンジェラ・デービスの姿も見え、最後にもたれた街頭パレードには五〇〇〇人もの人びとが参加したそうです。

もともと、この世界大会は「死刑大国」アメリカの問題を取り上げるのが第一の課題だったようですが、日本からの参加者の活躍によって、日本の問題も国際的に大きく浮上しました。世界大会の最終決議は世界の死刑存置国に「死刑の廃止を要求する」と明言し、「死刑に固執するアメリカと日本」の「ヨーロッパ評議会オブザーバー資格」の見直しに言及しています。

★ ★ ★

せっかくヨーロッパに行くのだから、と、日本からの参加者は大会の前後に、イタリア、ドイツも訪れ、各地で交流を持ちました。やはり「日本に死刑があるとは知らなかった」という驚きの声が多かったそうです。メンバーによる報告書の副題は「世界は知らなかった『死刑存置国』日本」とつけられていました。

アメリカの死刑制度は、世論を二分する政治課題として、マスコミでも大きく取り上げられるばかりでなく、様々な文学や映画のテーマにもなって広く話題になっていますが、日本のことはほとんど知られていなかったのです。無理ありません。私たちもほとんど知らされていないのです。

★ ★ ★

世界大会のために「隠されている日本の死刑」と題したパンフレットが四ヶ国語で制作されました。その前書きは次のような言葉で締めくくられています。

「……このように社会と隔離されて日本の死刑囚は存在し、社会と隔離されて日本の死刑は執行されます。これから紹介することは、日本人でも、関心の高い人しか知らないことかもしれません」

★ ★ ★

逆に日本の私たちは、ヨーロッパの人たちと話すとき、「えー、あなたの国では死刑はないの？」と驚くことが多いのではないのでしょうか。その「驚き」の意味をお互いに大切にして考えていきたいと思えます。

※世界大会の様子は右のホームページで紹介されています。

<http://www.ecart-type.com/en/ap4x2.htm>